# 第27回記念祭終わる

芦高新聞
発行所
県立芦屋高等学校
出版部
兵庫県芦屋市宮川町6の3

紅葉の秋
澄みきった青空
この空の下で
今、はじける青春!!

## いったい何が残ったのだろう
## あなたにとっての記念祭とは……

去る九月二十七日～十月一日まで代休も含めて五日間にわたって第二十七回記念祭が行われました。今年はクラス参加もぐっと増え、六クラスの参加が得られました。そのせいもあって（もちろん各クラブの発表内容も充実していたのですよ）大変活気ある四日間が送れたように思います。しかし、例年に比べると日数も短く、ファイヤーストームや映画鑑賞もなく、何となく寂しい気もするのです。来年あたりは是非"風と共に去りぬ"ぐらいを見せてほしい……と願っております。一方ルナ・ホールでの公演は約半数の参加しか得られず、例年通りの強制参加の方が良かったのでは？と思いたくなりました。色々あった四日間、マア楽しく過ごせたのではないでしょうか？

### 文化祭展示

九月二十八日・二十九日の二日間にわたって行なわれた文化祭展示は例年になくクラス参加も多く、活発なものとなった。

そのクラス展示の中でも"おばけ屋敷"が人気を集めていた。ヨーヨーつり、占いなども好評だったように思う。

"喫茶店"も繁盛していたようで、「売切れ」なんていう札も出ていた。

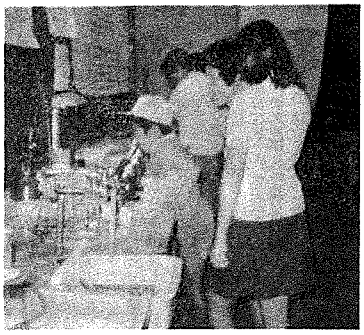
さて、クラブ展示の方だが、落研の客席はいつのぞいても大入満員！一年生が覚えたての落語を一生懸命にやっているのが印象的だった。茶道部のお茶席へ行くと、約十五分の正座にしびれをきらせてヨタヨタとよたりながら廊下へ出て来た人たちに会った。（一つ発見したこと―つま先で歩いている人は足がしびれているのダ！）

山岳部は登山服のファッション・ショーというおもしろい試みをしていた。

保健委員会が初参加をしてくれた。飼育園芸のハムスターは小さな子供から御父兄までみんなの人気を集めていた。来年はさらにすばらしいものを見てもらえるよう、より多くのクラスの参加、より充実したクラブの発表を望みたいものだ。

美術部、被服研究部は販売も行っており、これも好評に終わったようである。

その他のクラブもそれぞれ個性豊かな展示を見せてくれた。鉄研と史研はその展示内容を某新聞に発表された。生研、化研共に内容のある意欲的な発表を見せた。



### ルナ・ホール

九月三十日、記念祭第三日目は、ルナホールにおいての文化クラブ公演が校内の展示と平行して行なわれた。

公演を行なったのは全部で八つだったがそれぞれクラブ独自の雰囲気が感じられなかなか興味深いものがあった。

順をおって簡単にふりかえってみると、まず開場、あいさつの後、プログラム第一番は**ギター研究部**のロック演奏、公演のはじまりを華やかに飾った。又、客席からの部員の声援も大変なもので、会場全体の雰囲気を盛り上げようとなかなかがんばっていたようだ。

E・S・Sは、今年は舌切りすずめを取り上げ、子供でも知っているやさしい題材、簡単でわかりやすい英語を用い、成功していたと思う。

また、近頃ではめったに聞かれることのない琴の音を、しっとりと聞かせてくれた**箏曲部**も見逃がせないだろう。

午前の部最後をしめくくるのは**放送部**。題材のおもしろさもさることながら、声の演技と音響効果だけで客席を引きつけるところは地味ながら、なかなかの腕だ。

午後からは、劇「招待状」で演じられた。ユニークな物語の設定、シンプルな舞台面となかなかわったおもしろさが出ていたようだ。

ちょっとお堅い劇の後は落研が一席うかがいます、という訳で落語研究部のエース二人の登場。この日一番客席を沸かせた。笑いに理屈なし、というか普段の勉強疲れ？で少々くたびれた芦高生達を大いに喜ばせた。

そして、笑いころげて気分転換した後は、**コーラス部**と**吹奏楽部**の音楽をゆっくり味わってもらおうという趣向。

コーラス部は特にコンクールの優秀賞を得たこともあり、なかなかすばらしいチームワークだったと言えよう。つづいての吹奏楽部は、トロンボーン奏者がいないことなどでコンクールのときの予選を勝ちぬいた部による、運動部対抗リレー決勝、女子の方は、陸上部がその真価を発揮して一位、男子の方は、サッカー部が一位。

演技は、クラス対抗リレー決勝で終了した。

閉会式。総合第一位は、一年F組、第二位は、三年G組、第三位は、二年G組となった。

閉会式の後、デコレーションの取りこわしとなったよ演技が始まった。

ここで、各クラスがユニフォームに着がえたわけだが、特に目をひいたのが、ステテコにハラマキという寅さんスタイルのところとか、快傑ゾロのところとかであった。他にも、はっぴなどでコンクールのときの予選を勝ちぬいた部による、運動部対抗リレー決勝、女子の方は、陸上部がその真価を発揮して一位、男子の方は、サッカー部が一位。

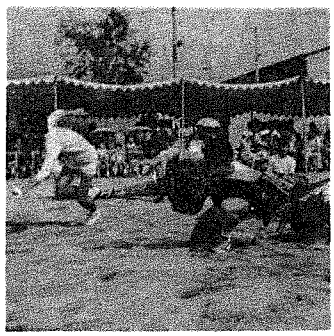
演技は、クラス対抗リレー決勝で終了した。

閉会式。総合第一位は、一年F組、第二位は、三年G組、第三位は、二年G組となった。

閉会式の後、デコレーションが、気分を盛りたてていた。

八時三十分、体育祭開始。開会式に続いて、全員で芦高体操。そしていよいよ演技が始まった。

ここで、各クラスがユニフォームに着がえたわけだが、特に目をひいたのが、ステテコにハラマキという寅さんスタイルのところとか、快傑ゾロのところとかであった。他にも、はっぴを着たり、ゆかたを着たりT・シャツを染めたり、いろいろだった。



### 体育祭

九月二十九日、月曜日、雨のため体育祭延期。

十月一日、水曜日。朝から秋晴れの良い天気で、ずらっと並んだデコレーションが、気分を盛りたてていた。

八時三十分、体育祭開始。開会式に続いて、全員で芦高体操。そしていよいよ演技が始まった。

ここで、各クラスがユニフォームに着がえたわけだが、特に目をひいたのが、ステテコにハラマキという寅さんスタイルのところとか、快傑ゾロのところとかであった。他にも、はっぴを着たり、ゆかたを着たりT・シャツを染めたり、いろいろだった。

学年全員でやる種目にはいろいろな楽器と捜し、音を作る楽しさを見せてくれたり、コンクールのときの予選を勝ちぬいた部による、運動部対抗リレー決勝、女子の方は、陸上部がその真価を発揮して一位、男子の方は、サッカー部が一位。

演技は、クラス対抗リレー決勝で終了した。

閉会式。総合第一位は、一年F組、第二位は、三年G組、第三位は、二年G組となった。

閉会式の後、デコレーションが、気分を盛りたてていた。

八時三十分、体育祭開始。開会式に続いて、全員で芦高体操。そしていよいよ演技が始まった。

ここで、各クラスがユニフォームに着がえたわけだが、特に目をひいたのが、ステテコにハラマキという寅さんスタイルのところとか、快傑ゾロのところとかであった。他にも、はっぴを着たり、ゆかたを着たりT・シャツを染めたり、いろいろだった。

学年全員でやる種目にはいろいろな楽器と捜し、音を作る楽しさを見せてくれたり、棒引き、棒倒し、騎馬戦などがあり、女子が3学年とも出場した綱引きでは、1年1勝1敗、2年2勝、3年2敗という結果に終わったが、表向きは七百円でも裏ではそれをすぎたところもあるのではないか。（これは推測に過ぎないが）

さて、ここに、この物価高の世に、なんと一人当たり五十円で、デコレーション、コンパ、クラス展示をやりとげたクラスがある。

知る人ぞ知る、二年I組建クラスである。

以下はI組の人の話。

"クラス展示を計画する際に建先生が次のような条件をつけた。我々の苦悩の発端であった。

その一、独創性に富むというよりは、独創性のかたまりみたいなものであること。

その二、あるテーマにもとづいて一貫性のあるもの。例えば、小さい子供が入口から出口までひとつとおり見終った後、親に何があったかと聞かれて、これこれこういうものがありましたとテーマを明確につかんであらすじを話せるようなもの。

その三、二年I組全員の努力を必要とし、二年I組でなければできないもの。

史研からベニヤ板を二十枚と木切れをもらってきて包装紙をのりでばりつけ、絵の具、ポスターカラー、クレヨンで彩色した。（ベニヤは高価で買えなかったのことで、劇映画もあればラップ、あき缶、発泡スチロール、砂、石、雑草、木の根……とにかくガラクタを集めまわった。

ユニフォームは、ビンのふたをつけたが、食券がなければいれずそのうえ、当日券も売りきれていたので、どうしようもなかった。喫茶店以外はブティックなどが

# 記念祭をふり返って

記念祭は終わった。ひとりひとりの胸の中にいろいろな思い出を残し……。

総体的にいって、わりとにぎやかであった。喫茶店などがあったせいだろう。特に二十八、三十両日共に盛況だったのは、〝おばけ屋敷〟。まっくらけの室内にキャーキャー黄色い声が終日こだました。

文化部公演・展示の二十八、三十日に話を戻そう。

まず二十八日。日曜ということもあり、人出は多かった。もうひとつ、もの足らない感じがしないでもなかったが、どこの展示会場でもひとおりお客さんはいったようだ。

ところが三十日。ルナもる」など執行部の軽率な発人影まばらなら、学校もば言もあり、「ホントにできらばら。おばけ屋敷のとこるのかな」と危ぶまれたことだった。

日曜でないので、一般の人が来られないのはわかるとして、どうもさびしかったように思われる。

演技面では、二年の一部の姿勢が、毎年取り沙汰されるが、今年、自分はどうだったろうか、ふり返ってみてほしい。思えば、記念祭は、自動販売機でジュースを買うようにボタン押して、数秒待って、はいOKと準備されたのではない。

一学期後半から、着々と準備され、二学期に実を結んだ。その過程には、「執行部の原案が取り入れられないなら、会長を辞めダダレてしまうのだそうだ。カツを入れ、会の発展を促進する原動力となるべき皆さん、くれぐれも……。

（出版部）

# 〝座談会〟

## 芦高生を起こそうとする会

二十八日には、一一一号、一一二号室で、「芦高生を起こそうとする会」と題して座談会が開かれました。

一一一号室では「自殺について」、一一二号室では「なぜ芦高に来ているのか」「なぜやる気が出ないのか」というテーマで話し合いが行なわれ、午前の部は、十時、午後の部は二時から開かれる予定でしたが、午前午後とも三十分遅れで始められました。

講堂公演やクラブ、クラス展示などがあったためか、出席状況はあまりよくなく、一教室にわずか六、七人といった具合でした。

では、その内容を一部紹介してみましょう。

午後の部「なぜやる気が出ないのか」から。

**司会**　芦高についてどう思われますか。

**A君**　平和、自由、やる気のなさに緊がる。

**B君**　好きだが、芦高の事をとりたてて聞かれてもことがある。昔、僕も「学独特の雰囲気がないから寂しい。

**C君**　連帯意識がない。記念祭はどこかしらけたところがある。他校生の意見が、出席状況はあまりよくなく、一教室にわずか六、七人といった具合でした。

**D氏**　初めてこの学校に来て、ふらりとこの教室へ入ったが、感想としてこの会場はお通夜のようだ。

**司会**　やる気が出ないという問題についてはどうでしょうか。

**D氏**　この問題は最近の事ではない。数年前、三無主義という言葉が流行したことがある。

自分にはやる気があったが親や教師からはやる気がないとみられていた。

**E君**　非行と言ったがそれは非行ではないと思う。

**D氏**　学校をさぼったが、こういう座談会にはさぼり倒したA君の方がよく出席していたように思う。

**吉田㊐先生**　やる気はもともとあるのだが、やりたいという意識がありすぎる。勉強にしても「やらなあかん」という意識は誰にでもあるだが、やりたくてもやれないということがある。

**今井先生**　やる気の有無にかかわらず、やらねばならないことは、たくさんあるだろう。人それぞれ、もの見方があり、感じ方がある。しかし、忘れないでいたい。記念祭は一人じゃできない。来年の記念祭は今年よりさらに一歩進んだものであってほしい。ねえ一年生の諸君、今から心してておいてくれ。来年は君らが中心だ。

そして、執行部の皆さん、記念祭が終わると、執行部を襲い、恐るべき病気、ここ存じですか。

何代目かの執行部の方が〝芦笛〟か〝芦高新聞〟かに書いておられた「記念祭疲れ病」がそれ。

大仕事をひとつ終わって頭がぼけっとしてしまい行部の任期はまだたっぷりありますぞ。芦高自治会にカツを入れ、会の発展を促進する原動力となるべき皆さん、くれぐれも……。

（出版部）

# 第1回 記念祭合同反省会 開かる

去る十月九日（木）午後三時半より、執行部および各実行委員長および先生方出席のもとに、視聴覚教室において、第一回記念祭合同反省会が開かれた。

書記長の司会で、まず最初に、計画全体についての反省・意見が求められた。

日程については、展示は全員参加が望ましい〟といった後日にまわされた。

やはり二日続きの方がよいという意見が出たが、どちらもよかったと感激した人もいるだろう。人それぞれ、もの見方があり、感じ方がある。しかし、忘れないでいたい。記念祭は一人じゃできない。来年の記念祭は今年よりさらに一歩進んだものであってほしい。ねえ一年生の諸君、今から心してておいてくれ。来年は君らが中心だ。

そして、執行部の皆さん、記念祭が終わると、執行部を襲い、恐るべき病気、ここ存じですか。

何代目かの執行部の方が〝芦笛〟か〝芦高新聞〟かに書いておられた「記念祭疲れ病」がそれ。

大仕事をひとつ終わって頭がぼけっとしてしまい、ダレてしまうのだそうだ。カツを入れ、会の発展を促進する原動力となるべき皆さん、くれぐれも……。

（出版部）

# いざ行かん！ 一年修学旅行

年間最大の行事である記念祭も終わり、二年生四五〇名は、来る十一月五日より九日までの五日間、高校生活三年間の最大の楽しみである北九州への四泊五日の修学旅行に出発する。

主な日程は、

十一月五日（水）
新神戸八時四十一分発、博多十二時五十七分着。
（行きも帰りも新幹線。ちょっぴりつまんないという声も……。）
鏡山―西海橋を経て長崎着。

十一月六日（木）
平和記念像―国際文化会館―異人館見学、長崎白

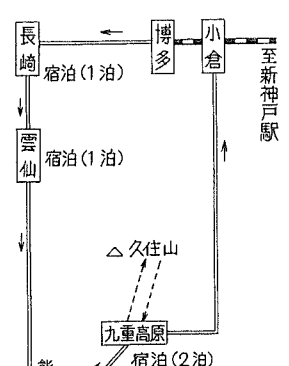
由散策―雲仙着。

十一月七日（金）
島原―天草第一橋―熊本城―水前寺公園―阿蘇―草千里見学―九重高原着

十一月八日（土）
（晴天の時）
久住山（一七八七m）登山―自然研究路湿原見学
（雨天の時）
竹田城―日件石仏―高崎山見学。

十一月九日（日）
深那馬渓を経て福岡寺見学―青の洞門―中津を経て、小倉十三時四十九分発、新神戸十七時四十四分着。

平和記念像―国際文化会館―異人館見学、長崎白




# 黒のプロパガンダ（一）

作・吉村正美

日をかんで死んじゃいたいような（これは中学の時やると、それは十一時五十四分を示していた。

「とにかく起きてくれ、ほんとうに舌かんで死んじゃう奴がいるかもしれないけれど、目かんで死ねる奴はいるまい。ってわけなんだ」腹立たしさ、つまり睡眠不足と大山に対する怒りがごちゃまぜになって、ぼくと親しい女の子なんかの中でやっと奴を追い出すことに成功して、ほっと一息ついた。

秋晴れ、ほんとに雲ひとつない空の下、庭の芝生に寝っころがって「大和古寺風物誌」なんていう本を読み、ギターをいじくったりして一日を過ごした。

今は真夜中だそ。時計を見の先生の十八番で、もし舌かんで死ねなんていうと、

「とにかく起きてくれ、三浦さんが来てるんだ。」

大山はぼくの手を引いた。

三浦紀子は、大山のまあいわばガールフレンドで、ぼくとも親しい女の子なんだけど（そして、かなりの美人だと思うんだけど）とにかく変わり者で、突拍子もないことを突然話しだしたりして人をひどく面くらわしたりするのだ。大山もその点同様だから、類は友を呼ぶっていうわけで、二人は親友関係を維持しているわけなんだ。

一日を過ごして……そう、今日は彼女にだそ。時計を見

四分を示していた。

「とにかく起きてくれ、三浦さんが来てるんだ。」

大山はぼくの手を引いた。

三浦紀子は、大山のまあいわばガールフレンドで、ぼくとも親しい女の子なんだけど（そして、かなりの美人だと思うんだけど）とにかく変わり者で、突拍子もないことを突然話しだしたりして人をひどく面くらわしたりするのだ。大山もその点同様だから、類は友を呼ぶっていうわけで、二人は親友関係を維持しているわけなんだ。

鋭の女より金持ちの女を選びなさい。』って。」

何がなんだかわからないうちに怒りがこみあげてきて、三浦紀子のことばを切った際にぼくはついどなってしまった。

「いったいこんな真夜中になんの用なんだ。鍵がかかっていただろう。不法侵入だぞ。」

「なぜですかってカントは聞かれて答えたんですって。『容貌は年とともに増加するからね。』……ほんとに失礼しちゃうと思わない？」

ぼくが、この女をなぐりつけてやろうか、なんて考えているうちに大山が話し出した。「悪かったよ。吉村。でも鍵を牛乳箱の中に入れとくのは、あまり感心しないなあ。それから三浦さんは、おまえと同じく留守番だっていうんで不健康ながら、夜の散歩としゃれこんだわけだよ。」

「そうそう、正美くん、今朝、大山くんからマッチ売りの少年の話を聞いたんですって？あれは正司薫の本にあるんだけど、嘘っぱちよ。アンデルセンのお母さんは、貧しい家庭に育って、さまざまな苦労をしたんですって。その話を聞いたアンデルセンは感動してそれであの話を書いたんだって。だから少年のはずはないのよ。」

大山は、ニヤニヤしながらテーブルの上のライターをいじくっていた。

ぼくは、ソファに倒れこんだ。いったいここは夢の中なんだろうか。それとも現実なんだろうか。

なんて秋ってすばらしいんだろう。

「吉村、おい起きろ、吉村……。」体を激しくゆり動かされてぼくは目をさました。今日はこれで二度目だ。

果たして大山の野郎が朝と同じ黒ずくめの服装でベットの横にしゃがんでいた。でも、大山は朝帰ったんじゃなかったのかな？そんなことはどうでもこう答えたのよ。『美

服を着替えて（大山の命令で学生ズボンに黒いポロシャツという恰好に無理やりさせられて）応接間に入ると三浦嬢がソファの隅にやっぱり黒ずくめの服装ですわっていた。

「こんばんは。」ぼくが声をかけた。

「ねえ正美くん。カントは一生独身で過ごしたくせに、人からどんな女を妻にすべきかって聞かれた時いいわよ。」

「そうそう、正美くん、今朝、大山くんからマッチ売りの少年の話を聞いたんですって？あれは正司薫の本にあるんだけど、嘘っぱちよ。アンデルセンのお母さんは、貧しい家庭に育って、さまざまな苦労をしたんですって。その話を聞いたアンデルセンは感動してそれであの話を書いたんだって。だから少年のはずはないのよ。」

大山は、ニヤニヤしながらテーブルの上のライターをいじくっていた。

ぼくは、ソファに倒れこんだ。いったいここは夢の中なんだろうか。それとも現実